

一 京都哲学学会公開講演会記事

恒例の京都哲学学会公開講演会は平成十二年十一月三日(金)午後一時半から、京都大学文学部新館第三講義室において左記の如く行われた。

一、志向性——問題状況と歴史的背景

京都大学文学部助教 中畑 正志

一、武道の発明

京都大学文学部教授 井上 俊

講演会は数多くの会員の方々の出席をえて盛会であった。また講演会終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者とともに討論と歓談の一時を過ごした。

二 外国人学者来訪講演会記事

平成十二年七月より同年十二月末までに、京都大学大学院文学研究科の旧哲学系諸研究室の主催ないし共催のもとに行われた外国人学者による講演会は次の通りである。

キットマン・E・ヒイリップス氏(ウイスコンシン大学助教授)

「地蔵十五王について」

平成十二年七月六日 於京都大学文学部新館第一講義室

イレネ・ペッバーバーク氏(アリゾナ大学)

「灰色おうむの認知・伝達能力」

平成十二年九月三日 午後三時—五時 於同第四講義室

ロナルド・シュスターマン氏(カリフォルニア大学サンタ・クルーズ校ロング・マリーン研究所)

「動物の社会認識へのアプローチとしての等価関係のモデル」

平成十二年九月三日 午後五時—七時 於同第四講義室

マーク・ラリーモア氏(プリンストン大学助教授)

「弁神論に対する攻撃と擁護」

平成十二年十月三十日 午後四時半—六時半 於同第四

演習室

ハンスリョアヒム・ラウブ氏(ボン大学)

「高貴で自由な芸術——十七世紀オランダ絵画の芸術観」

平成十二年十一月二十九日 於同第三講義室

三 京都大学文学部卒業論文題目——平成十二年三月——

哲学

大伴 慎吾 ウイトゲンシュタインの『青色本』における言語哲

学

紀 啓子 ショーベンハウアーの世界観

辻内 宣博 ホワイトヘッド『観念の冒険』について

梁川 敬子 『青色本』におけるウイトゲンシュタインの哲学的

態度

岩崎 晋也 『論理哲学論考』における独我論について

瀬戸口 聰 ヒューム『人性論』における因果律批判と懐疑論

西洋哲学史

佐藤 龍 初期ニーチェにおける「個体化の原理」の意義

「悲劇の誕生」と「道徳外の意味における真理と虚偽について」をめぐって—

吉沢 一也 アポロンとアテナイ—『弁明』における法への不服
従問題をめぐって—

日本哲学史

平林 書仁 生をめぐる諸考察
宮野真生子 あいだと他性

倫理学

加藤 益丈 ハーバマスのコミュニケーション倫理学
岸田 功平 義務論理の二つの様相

佐々木 雄 純粹理性批判における客観的妥当性について
島内 明文 ロールズ正義論における自由の優先性について

松村 路代 自然主義的誤謬に対する考察—ムーアの『倫理学原
理』にそくして—

小林 秀雄 安楽死に関する応用倫理学的考察
藤井 剛 戸坂潤と自由主義

宗教学

鈴木 愛美 物語論
高倉 葉子 夏目漱石の死生観

竹内 綱史 ニーチェにおけるニヒリズムについて
二羽 礼 西谷啓治におけるニヒリズムの問題

花城裕一郎 マックス・シェーラーにおける価値についての認識
理論

谷風 公一 一撃離脱の思考—「境界」を巡るいくつかの試み—

美学美術史学

石川 絵里 岡本太郎の「対極主義」の表現とその意味—「森の
掟」の背景を探る—

江川 紗代 読本『南総里見八犬伝』の挿画について

大和田直樹 ミハイル・バフチンと小説の美学
利谷 慶子 サウンド・アート・メディア—クリスチャン・マー
クレイに見る現代芸術の中の音—

長谷川倫人 パウル・ツェランと詩作

土生 和彦 円空とその作品

平野あさぎ マティス作「大きな横たわる裸婦」について
福地里江子 ギュスターヴ・モローのサロメに関する作品につい
て

松尾 嘉典 ポール・リボワレ論

門田今日子 クリストファー・ドレッサーのジャポニスム
齋藤まりか 日本の近代工芸における芸術家意識

崎村 俊介 美的価値と金銭価値の関係についての考察
竹内 道夫 マルセル・デュシャンとディスプレイ

西出 佳子 田畑あきらの絵とことばの世界
野嶋 友香 アンドレ・ケルテス—写真にとらえるということ—
湯川 知行 マンガ表現の本質的制約について

中国哲学史

原 貴章 「自然」から見た仏道論

仏教学

白石 竜彦 『宝性論』研究

心理学

稲田 聖子 楽器の音色と音の高さが色彩印象に及ぼす効果
牛谷 智一 ハトにおける知覚的補間の検討

大笹 麗子 誤導情報効果における感情の影響

大山 涼子 視覚探索課題における色差の影響

木元 聡子 心理学実験におけるハムスターのストレスについて

関 堅呉 視点不変的物体認知における仮現運動の役割

長坂 政成 音響広告における情報外効果の検討

冬木 晶 ハトにおける心的イメージ操作の実験的研究

増田 露香 フサオマキザルにおける欺き行動の実験的分析

室園 喬 ハトにおける探索非対称性の研究

南 哲人 ワーキングメモリの脳内メカニズムに関するモデル的研究

小林 章子 親子の会話の音声データに基づく言語獲得過程の定量的分析

佐々木 淳 対人羞恥における中間的親密性の効果に関する研究

山中 理恵 ハトにおける object unity の知覚について

社会学

大島 良太 修験道の宗教社会学的考察

岡田 直樹 生成と倫理

片岡 咲良 ゲームセンターに関する文化社会学的考察

神田 裕介 まちづくりの社会学

兼定 早苗 スポーツ文化の社会学

瀬戸 悠子 山と人の環境社会学

帯刀 真吾 住環境が子供に及ぼす影響

田中雄生樹 「ジベタリアン」の生態の社会学的研究

谷口 俊一 両大戦間期における軍人の社会的地位

寺谷 圭生 「有機体」としての組織の考察

西川 亜希 現代日本の結婚に関する社会学的考察

西川 直哉 都市伝説の考察

野尻 麻子 少女小説における少女像の変遷

東山 雄樹 公衆道徳に関する社会学的考察—社会的迷惑行為を
中心に—

平光 文乃 現代日本のコーヒー文化に関する社会学的考察

藤丸 力哉 モータリゼーションの社会学的考察

蛭原 一愛 現代日本の子育て事情に関する考察

北村 圭子 癒しブームの社会学

小林 美穂 ジンメルにおける近代社会と個人

佐藤 寛之 嗜好と共存の社会学

土肥 誠典 インターネット・コミュニケーションの可能性

林田 淳子 「メロドラマ」の変容

平尾 啓史 失われた実感—ポップメディアと社会意識—

北川 史朗 「賭け」の社会学

科学哲学科学史

橋本 和也 クワイン哲学と経験主義の歩み

小野田波里 アインシュタインの宇宙論

佐野 勝彦 プライアーのマクタガート時間論批判

倫理学

四 京都大学大学院文学研究科修士課程修了論文題目

——平成十二年三月——

哲学

佐々木 崇 存在論に関するクワインの主張とその哲学的背景

佐藤 千洋 超越論哲学の臨界—デリダの問題設定について—

中島 裕介 ヘーゲルの『精神現象学』について

浅沼 涉 フッサール初期における算術の基礎づけ—『算術の哲学』に関する一考察—

『算術の哲学』に関する一考察—

西洋哲学史

石田真衣子 デカルトの意志論について—精神の能動・受動を軸にして—

多田 光宏 ショーペンハウアーにおける「生への意志の否定」について—道徳を超えるということをめぐる—

吉川 大介 実定法の目的、及び効力について—トマス・アクィナスの法論より—

西尾 浩二 プラトン『ヒippiアス(小)』におけるパラドックスの意義

スの意義

日本哲学史

川端 伸典 試論・内村鑑三—近代思想の受容と形成—

鶴田 尚美 合理性と人格

林 芳紀 ロールズの倫理学方法論—反省的均衡の意義と限界

源 重浩 ヘーゲルにおける自我の自己認識の問題—ヘーゲルのカント批判を契機として—

宗教学

辻 虎志 メルロリボンティの知覚論

松原 詩乃 必然性に生きる知性的存在者の自由と欲びについて—シモーヌ・ヴェイユにおける脆さへの愛による不幸の受苦—

キリスト教学

川桐 信彦 表現主義とテイリッヒの視覚芸術論

美学美術史学

佐藤 由貴 マドンナ・デッラ・ヴィトリ

「ア」について

血井 舞 日本彫刻史における和様への道程

中川 克志 ステイブ・ライヒにおけるミニマリズムについて

松岡久美子 十三世紀前半期における慶派の作風展開について

黄 貞燕 『芥子園画傳』初集の成立について

中国哲学史

王 文玲 蔡元培の孔子及び儒学観

仏教学

江田 昭道 *Ranavali* 研究—Gyaltsab 註を中心にして—

心理学

石田 開 幼児における事物ラベル獲得メカニズムの検討

黒島 妃香 フサオマキザルにおける見ることと知ることの関係
の理解

社会学

大熊 正浩 明治期における離婚の歴史社会学的考察

海道 由妃 両大戦間期の高等教育論

熊田 知子 現代的「自己」観念についての考察

阪本 博志 戦後日本における「勤労青年」文化の社会学的考察

右田 裕規 「天皇制」と進化論

水野 英莉 「男性社会」における女性スポーツ愛好者の社会学
的研究

的研究

村田 泰子 食べることの近代

渡邊 拓也 ハシッシェと近代に関する逸脱論的一考察

科学哲学科学史

澤井 直 ボネの発生理論における preformation

五 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

博士課程学修者氏名——平成十二年三月——

哲学 竹中利彦 山田健二

西洋哲学史 木原志乃 周藤多紀

宗教学 伊藤慶郎 高橋良一

美学美術史 平川佳世 平芳幸浩

心理学 石川悟

社会学 中山ちなみ 西村大志 野村明宏 鎌原利成